『3．11の現実－そして、私たちはこの町にきた』掲載紙①

スマイル
タウン通信
NO.167
☎0120(314)890
FAX042(464)1472
http://www.town-t.com
town@town-t.com
〒188-0011 西東京市田無町7-1-1-113
水曜日発行

被災者の体験、NPOが冊子に

「3.11の現実ーそして、私たちはこの町にきた」

一昨年の3月11日に発生した東日本大震災の影響で、西東京市などに避難してきた人たちがいる。このたび、そんな被災者の避難体験などをまとめた冊子を、同市に拠点を置くNPO法人が発行した。

「私たちは忘れない」――このほど西東京市に拠点を置くNPO法人生活企画ジェフリーが、冒頭のフレーズで始まる冊子「東日本大震災による避難体験の聞き書き 3・11の現実ーそして、私たちはこの町にきた」を発行した。

これは、同市などに避難してきた被災者に聞いた当時の体験や現在の状況などを中心に、1つの本にまとめたもの。さまざまな被災体験が具体的に綴られており、迫力あるものになっている。

同NPOはこれまで被災者支援の交流会など、3・11の影響でこの地域に来た人たちが集まり、交流する場をたびたび設けてきた。最初のころは参加者たちは一様に不安そうな顔で、見ているだけで涙が出そうになったと同NPO理事長の渡辺美恵さん（66）は話す。

渡辺美恵さん

だが時間の経過などとともに状況も変わってきて、被災者の生活も徐々に変化してきた。被災者以外の人の関心も日常生活にシフトしていく中、サポートのあり方も転化する必要が出てきた。

そんな環境下で、何ができるかと考えたとき、これまで交流してきた人たちの話をまとめて文章化することに思い至ったという。「震災であったことを風化させたくない。それが一番の思いです」（渡辺さん）。

A5判、122㌻で1000円（頒価、送料別）。購入希望者は住所、氏名、電話番号、冊数を明記の上、同NPOへファクス（FAX042・467・2096）で。電話も可（☎042・467・2089）。20日（日）以降に冊子と振込用紙を発送。売り上げは製作費を引いた全額を同震災復興支援団体に寄付する。

インタビュー 平井真佐美さん

「園児とわが子を守り、出会った人びとに助けられ」

子どもを抱く平井さん

今回、同NPOの聞き取りで、同冊子に体験が掲載されている西東京市在住の保育士で、3人の子を持つ平井真佐美さん（36歳）に話を聞いた。

平井さんは震災以前、福島県いわき市に住み、13年間地元の保育園に勤めてきた。地震発生時は勤務中。長男と次男は一緒に保育園にいたが、長女はほかの学童保育所にいた。恐怖と寒さに震える園児を守らなければならないという保育士の立場と、長女を心配する母親の気持ちのはざまで揺れた。しばらくすると、駆けつけた保護者たちが「先生は自分の子を見にいってあげて」と言ってくれて、長女と再会することができた。

現在に至るまでには、多くの人の協力があった。避難途中、見ず知らずの人の家に泊めてもらったことも。「知らないふりをすることもできたのに」と感謝があふれる。

「震災発生時は保育園だったので、園児用の毛布などで寒さをしのげましたが、今は幼稚園勤務でそういった事態に対処できません。また、激しい揺れの中、ピアノや本箱などが非常に危険でした。そういった体験を幼児教育現場の人に伝えて、もしものときに生かしてほしい」。保育士としての責任感と、母としての強さがうかがえる。

今後地域に望むことを聞くと、「ずっとこの地で子育てしていける環境を作ってもらいたい。子どもたちも私も、こちらで多くの友達ができましたしね」と話してくれた。